

人口減少時代における沿岸域の魅力的な地域づくりに向けた取り組み



沿岸海洋・防災研究部 沿岸域システム研究室 室長 上島 顕司

(キーワード) 人口減少、沿岸域、地域振興

1. 背景

2014年12月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと総合戦略」が閣議決定された。高度成長期以降、陳腐化・老朽化した港湾の内港地区で、いわゆるウォーターフロント開発が行われてきた。こうした開発は一部に限られ、現在でも、沿岸域（港湾・海岸）における貴重な地域資源の活用が十分に行われているとは言い難い。地域振興への貢献のためにも、人口減少下の地域における交流人口拡大のためにも、沿岸域（港湾・海岸）における地域資源の発見・活用が益々、重要となる。このため、沿岸域システム研究室においては、過去の国総研における蓄積¹⁾等も活用しつつ、沿岸域の魅力的な地域づくりのための取り組みを開始したので報告する。

2. 今年度の取り組み及び今後の研究の方向性

今年度は、ウォーターフロント開発以降の開発事例を収集し、空間整備の流れ及び課題等について把握した。その結果、近年の空間整備の特徴としては、大規模な再開発が一段落する一方、

- ・住民参加等による取り組みの増加
- ・倉庫等既存施設の有効活用事例の出現
- ・高潮・津波対策等に伴う再整備の需要

等が挙げられること、また、課題としては、

- ・（沿岸域に位置していながら）その魅力（立地特性）を十分に活かしきれていない事例
- ・（開発した地区では成功しているものの）既存背後市街地との連携が不十分である事例

等があることが分かった。また、7月には港の地域資源の発掘・活用の試みとして「歴史と風景から『みなとヨコスカ』の魅力を探る講演会」を開催した。

今後は、更なる事例の評価・分析とともに、以下のような観点に留意しつつ地域資源の活用方策等について分析を行ない、沿岸域の魅力的な地域づくりにあたってのポイント等を取りまとめた手引きや参考事例を整理した資料集等を作成することとしている。

- ・産業立地や物流ネットワークの再編に際しての地域資源の活用
- ・海上交通ネットワーク（物流・人流）を踏まえた一地方公共団体の範囲を越えた広域における連携等、海・港からみた地域資源の活用
- ・高潮・津波対策等防災面における整備に際しての地域資源の活用、特に国内外の各種事例の適用可能性等の検討（写真）

なお、研究にあたっては有識者等と連携するほか、シンポジウム、講演会等による情報発信を行う。



写真 護岸上がプロムナードになっている海外事例（サン・マロ、フランス）

【参考】

1) 広瀬宗一他(2008):地域資源・交通拠点等のネットワーク化による国際観光振興方策に関する研究, 国土技術政策総合研究所プロジェクト研究報告No22

<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoku/kpr/prn0022pdf/kp002202.pdf>